ジョージ

Ｇ・アダムスキー通信

＜第１０６号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、Ｇ・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

地球上では、オリンピックをはじめ競技ごとの世界大会などが開催され、競技者や関係者、その支援者などを含め大きなマーケットとなって活況を呈しています。これをスポーツ業界と呼べば、プロとしてスポーツを行う人々は、その支援者であるファンがいなければ職業として成り立ちません。このファンがスポーツ業界を支えているのだと言えるでしょう。

どのスポーツでも熱狂的なファンというものは存在するもので、支援する個人や団体の成績に競技者とともに一喜一憂し、その試合観戦のために仕事を選び、最大限の時間を割いて応援をしています。スポーツをする側にとっては、こうしたファンは大変ありがたいものであり、大いに歓迎すべきことです。

しかし、スポーツについては、世界を操る側の人々、日本では、GHQ が日本占領で行う〝３Ｓ（スリーエス）政策〟として、Screen（映像鑑賞）、Sport（スポーツ観戦）、Sex（性欲）を用いて大衆の関心を政治からそらす愚民化政策の一つとして知られています。

また、アダムスキーもスポーツについては、あまり推奨していないところがあります。但し、アダムスキーは、当時、野球に詳しかったとフレット・スティクリング氏は語っています。

スポーツが良くないとされるのは、個人競技であれ団体競技であれ、相手を〝打ち負かす〟競技が多いことと関係していると思います。〝打ち負かす〟ためには、闘争心（エゴ）を強化してあらゆる努力により自己を鍛えあげます。下手をすると手段を選ばないような状況です。

精神と肉体が超一流ともなれば、邪念を超えて安定してくると思われますが、最高点にまで達しない人々は、確かに良い感情はないのかもしれません。熱狂的に観戦する側も、その個人の行うべき人生なのか、熱狂的歓喜などはエゴの発露ではないのかなど疑義が残ります。

スポーツ競技は、資本主義社会あるいは競争原理に合致していると思います。地球的なスポーツは、ＳＰには必要ないものですが、地球人には、成長のために必要であり、そこから何を学んだのかを理解しつつ、燃えすぎず、勝敗にこだわり過ぎないことが大切なのだと思います。

“言葉に注目”

＜ このレッスンにおいて（地球の）人間は失敗しました ＞

『 第２惑星からの地球訪問者 』　　Ｇ・アダムスキー著　中央アート出版社

この言葉は、アダムスキーが土星の母船に乗船した際、マスターから話された内容の一部です。この前段に庭園の美しい花々を人間に例え、背の高い花低い花、様々な色は全体の喜びであり、芳香を含めて最高者への奉仕であると語っています。また、万物は他に奉仕することによって自己に栄光を与える。万物は与えてであり受け出てあると言っています。

この生き方に地球人は、失敗したと語っているのです。資本主義社会にも問題はありますが、その活用者であるはずの人間が、それに使われ貪欲になって、自己の利益ばかりを求める生き方。商い（あきない）と言われた日本の商売が、ビジネスとなり、明らかにおかしくなってきています。絶対者を背骨とした利他的精神、それが求められているのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart１０６

今回は、レクチャー１１「宇宙空間の探検」の『想像を絶する土星、金星、火星の実態』。初めに、「他の惑星へ旅する前に、ここでひとつ遠隔透視といわれる状態を取り上げてみましょう。」と書いています。これにより〝意識による旅行〟と〝遠隔透視〟は別であると理解されます。この現象が起こると映像が見えることから、心は周囲に関心を持たなくなると言います。「これは意識がもたらす映像に心が関心を持つため」です。「第２惑星からの地球訪問者」を読んでその人が持つ高揚感は、同じく心と意識の結合状態であると語っています。

ここからアダムスキーが体験した土星、金星の状況と意識の旅行による火星の状況について書いています。

土星については、〝空が地球の空とわずかに違う〟、〝土星の輪のために青色が少し乳白色を帯びている〟、〝それはまるで息がつまるような美しさ〟、〝建物は・・・空の青味かかった乳白色を反射〟、〝自分が以前よりも別人になったような気がします〟、〝あらゆる人がこちらを見透すようで・・・だれもが自分の一部であるような気がします〟などと書いています。

金星については、〝ときたま雲が切れて日光が差し込む〟、〝空気は湿潤ですが重苦しくはありません〟、〝多数の協力者から成る政府が一つ〟、〝金星も万物を一体に結束する宇宙的な愛を表しています〟などと伝えています。

火星については、〝商業と産業が盛ん〟、〝ほとんど乾地農法〟、〝水は極冠や溶ける氷結地帯から水路で引かれ〟、〝塩分が豊富〟、〝人口急増〟などと説明しています。

これらのことから、それぞれが意識による旅行により確認して欲しいということでしょう。詳細は不明ですが、遠隔透視により映像を見ながら、そこに入り込むように同調すると〝意識による旅行〟ができるのではないかと推察されます。まずは、試みることでしょう。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編１０６＞

〝 末ついに海となるべき山水も　しばし木の葉の下くぐるなり 〟

これは、江戸中期の歌人、伴蒿蹊（ばんこうけい）の作で、田中角栄元総理が好きな言葉として、色紙に書いては若者へ配っていたと言われています。山は海の恋人と言われ、山水は正にこの詩のとおりの動きですが、田中元総理が自分の生き方に重ねていたものと思います。

Q&A

Ｑ：チャネリングは良いことか？　　※ここでは、よくある質問等をＱ＆Ａとして書いたものです。

Ａ：精神世界の話として、チャネリングと言って高次元の存在や宇宙人とコンタクトするというものがあります。テレパシー能力が高い人が行う場合や、そうでもないものなどいろいろあるようです。浮かれることなく、正当なアダムスキー解釈を軸に対応した方が良いと思います。

書物紹介

『 エゴを抑える 』　ライアン・ホリデイ 著　パンローリング株式会社

著者は、アメリカのメディア戦略家であり作家です。本書では次のように書いています。「私たちは、モノゴトがうまくいかない原因は外部の世界にあると思いがちだ。お金がないとか上司に恵まれていないとか運が悪いとか。しかし実際は私たちの内部に潜むエゴこそが、最大の障害なのである。」と。その実例を著名人の言葉や行動などから拾い上げ、書物としたものです。エゴのコントロールの重要性を説いた、その点ではまれな良書だと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆　　2024 年 7 月 20 日（土）、11 月 9 日（土）、2025 年 2 月 22 日（土）午後 1 時 30 分より台東区民会館第１会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

私は、暇が好きではないようで、何時も忙しくしてしまいます。それも善し悪しのようです。当会のＨＰも、毎回お読みください。

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信　＜第１０６号＞

発 行 日　令和　６年　７月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）

ジョージ

Ｇ・アダムスキー通信

＜第１０７号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、Ｇ・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

Ｇ・アダムスキーによれば、彼ら進歩した異星人（ここでは金星人）は、新生児について〝創造主から与えられた贈り物〟として、〝その想念のパターン〟を知るために愛情深く育てられるのだという。そして、彼らは新生児から多くのことを学ぶのだと言っています。
これには、どのような意味があるのでしょうか？ 新生児を〝創造主からの贈り物〟というのは、地球上でも言われていることです。これには色々な意味があると思われますが、おそらく自分たち自身では〝コントロールできない〟という意味が大きいように思います。
異星人の場合は、今の自分たちにとって前進していくための贈り物、幸せの源としてとらえているように思います。
そこで、〝新生児の想念パターンを知る〟というのは重要なことなのだと思います。それは、新生児と言えども魂は、その誕生から、その後の過去世の経験を持っています。そこで新生児の魂の誕生から今日までの生きた軌跡、これからどのようになりたいのか（役割）、を読み解くことなのだと思います。それを知って、育てていくということです。これは大切なことですが、地球上では全く行われていないことです。
さらに重要なところは、彼らは〝新生児から多くを学ぶ〟ということです。新生児の肉体は、父母の遺伝的な特性を有しています。しかし、父母の肉体的な経験や知識は引き継がれません。つまり、新生児の原子群は経験を持っているものの、細胞としては未経験なもので、これから経験を積んでいく部分です。魂についても、基本的に父母とは別物です。この時の魂は、ストレスのない器に入り、創造された時のように輝いているのではないでしょうか。
このため異星の父母は、魂の誕生時や過去世の経験を追体験し、そこから多くを学び得るのだろうと思います。こうした行為は、創造主の〝宇宙の計画〟への想いや、各人の関わり方を確認する貴重な機会となっているのではないでしょうか。私たちも、雑念のない新生児から多くを学びとれるよう謙虚に生きていきたいものです。

"言葉に注目"

＜ われわれは地球を幼稚園にたとえてよいだろう ＞

『 ＵＦＯ の 謎 』　　Ｇ・アダムスキー著　中央アート出版社

この言葉は、「地球は一種の幼稚園」と題するところで書かれているものです。その説明として次のように書いています。「そこでは多くの個性を持った幼児が勉強したり遊んだりしている。ここには生意気なのや喧嘩好きなのや、臆病なの、内向的なのや外交的なの、我慢強いのや短気なの、親切なのや意地悪なのがいる。そしてこれら各個人が互いに調和しあうことを教えるのが幼稚園の課題の目的である。こんなふうにして自己抑制ができるようになり、団体としての調整がうまく行く。」しかし、これがうまく行っていないので、自己抑制ができず、幼稚園児が〝ダイナマイトをもって遊んでいる〟と言われるのだと思います。改めて、アダムスキーが伝えた、感覚器官のコントロールが最重要であると思わずにはいられません。

「生命の科学」学習のポイントPart１０７

今回は、レクチャー１１「宇宙空間の探検」の『意識による空間の旅行』です。

まず、次のように書いています。「・・・意識が自分に洩らしてくれる物事を心が信頼するならば、人間は意識によって空間を旅行することができます。」そして、このことを知らないで何度も宇宙旅行をする人がいる、時には睡眠中に起こると書いています。

私たちは、〝宇宙の意識＝意識〟について、何度も読んでいますし、それぞれに理解しイメージしていると思います。そこに対する信頼を持っていると思われます。アダムスキーは、〝意識が洩らしてくれる物事を心が信頼するならば〟〝空間を旅することができる〟と書いています。私たちが、意識に全幅の信頼を寄せていると思っていても、空間を旅行できないとすると、意識を信頼していないということになるかもしれません。あるいは、その心の在り方に問題があるのかもしれません。

仮に、睡眠中に宇宙旅行などをしていたとすると、次のようにも考えられます。覚醒時は、心が雑念を持っているので、周囲を気にしたりしてしまうが、睡眠中には心は大方解放されるので意識に反応しやすいということです。

次に、意識を信頼できるよう重要なことを言っています。「・・・意識とはそのなかに万物が生きている生命の大海である・・・。その大海の外には生命はありません。」ということです。これを強く認識すれば、その中で生きる人間（自分）は、その海を頼らなければならなくなるということです。確かにその通りです。これに気づくと、海の活動のさまざまな面と、海を通じて表れているさまざまな物に関する知識を心に印象づけるようになるということです。これは大海中の魚が、水中を伝わってくる大嵐に気づくようなものだと言います。こうして宇宙からの印象を感じるようになると、人間は、思う場所へ行くことができるということです。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編１０７＞

〝総好かんを食う（そうすかんをくう）〟

この言葉は、ときどき耳にすることがあります。この〝総好かん〟は、文字のとおり、すべてから好まれていないのです。つまり、周りの人々から嫌われているのです。子供時代だけではなく、大人社会にあってもあまりに自分勝手であると、このようなことになるようです。

Q&A

Ｑ：転生は証明できる？　　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

Ａ：最近、転生についての書物を目にするようになりました。一部の科学者も研究を始めているようです。各自でその可能性を感じることがあっても、科学的に証明となると先の話だと思います。しかし、各自の中で否定できないものもあると思います。まずは、それでよいかと。

書物紹介

『 安 倍 晋 三　回顧録 』　　安倍 晋三 著　中央公論新社

著者は、言わずと知れた元総理大臣です。本書は、橋本五郎氏と尾山宏氏が、安倍総理の退任後、１年をかけて行ったインタビューを文章に起こしたものです。安倍元総理については、熱烈に支援する人と、強力に批判する人の双方が存在します。これは、安倍元総理が批判する報道機関が、良くないことばかり宣伝することと重なります。しかし、本書は、安倍元総理の人柄や世界観、自国愛など多くのことを読み解くことができる、良書であると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆　　2024 年 11 月 9 日（土）、2025 年 2 月 22 日（土）、5 月 10 日（土）午後 1 時 30 分より台東区民会館第１会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

今回は、大変に多忙で、発行時期を読み誤り時がすでに来ていて慌てて書いたものです。退職しても暇ではない。良いことではあります。

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第１０７号＞

発 行 日　令和　６年　９月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）

ジョージ

Ｇ・アダムスキー通信

＜第１０８号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、Ｇ・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

絶対的な〝善〟は、存在するのでしょうか？　絶対的な〝善〟とは、誰によっても否定されない〝ありてあるもの〟と言えると思います。それは〝神〟と呼べるものだと考えます。

絶対的な〝善〟とは、因の世界のものであり、宇宙という結果の世界には存在しないものと考えています。宇宙の中には、善とその対立としての悪が存在すると見なされています。

では、因の世界に絶対的な〝悪〟が存在するのかというと、それは違います。そのようなものではなく、〝ありてあるもの〟を、ここでは〝善〟と呼んでいるということです。仮に、絶対的な〝善〟が存在しないとすると、因の世界が無秩序となり、その結果物である宇宙そのものが存在できなくなります。このように思考することは、大変重要なことろです。この絶対的な〝善〟というのは、万物の基準、あるいは指針と呼べるもので、そのようなものが因の世界には存在するということです。これを肯定しなければ、人間としての生の一歩を踏み出せないと考えられます。アダムスキーが語る〝宇宙の意識〟を信頼せよというのは、正にこのことにあたります。

これを認め宇宙の法則を理解し、人として成長すると人類の未来が見えてくるのだと思います。この生き方が正しいことの証左として、近隣惑星の人々は素晴らしい発展をとげているのです。その彼らは、さらに進んだ人々から学んでるというように、無限に成長への道が示されているのです。一方、これを認めていない私たちの世界は、中途半端な世界と言わざるを得ません。

宇宙の意識に従うことは、自由を損なうと考える人々がいます。そこが理解されない理由です。最近、知ったことですが、「自由」についてヘブライ大学の著名な教授は、次のように言っていたということです。「自由＝フリーダム」の語源は、出エジプト記にあって「神の摂理に従う」という意味だということです。つまり、先に書いた絶対的な〝善〟（宇宙の意識）に従うということです。これがエゴから解放された、真の自由なのです。

私たちの世界は、相対的世界ですが、そこに絶対的な基準を導入する必要があるようです。その基準を私たちは、アダムスキーより教えられていますので大変幸福なのだと思っています。

"言葉に注目"

＜ 重病人を治した例を二つあげましょう ＞

『 金星・土星探訪記 』　　Ｇ・アダムスキー著　中央アート出版社

これは、１９６３年５月における講演後の質疑応答で、「異星人の地球人への援助」についての質問に応えたものです。一つ目は、パイロットが全身マヒにかかっていて、車いすに座って歩けない状態であったという。異星人に治して欲しいとアダムスキーが頼まれ、それを異星人に伝えたら三か月以内に回復したということです。二つ目は、歩くことも見ることもできない六歳になる少女を助けてくれと異星人に頼んだら、六か月後に少女は全く普通の状態に回復したということです。アダムスキーは、〝彼らは病気を治せない〟と言っているところもありますが、後半では、このようなこともしていたようです。２千年も前から、このようなことをしていたと考えさせる事例であると思います。

「生命の科学」学習のポイントPart１０８

今回は、レクチャー１１「宇宙空間の探検」の『遠隔指導の実例』です。

ここでアダムスキーは、自分の体験について書いています。１９３０年代に一人の研究者が病気で会合に出られなくなりましたが、次の週の会合で、その人は「出席できなかったけれどもあなたの指導を受けた」と語ったということです。これについてアダムスキーは、多数の人を指導していながら、一方では病人のところへ行っていたという解釈となるようです。これは、「一個のマイクロホンを使用して二個のスピーカーから放送するのと同じです。」と言っています。これを一箇所で肉体、他の場所で想念体と表現しています。

この想念体について、「影が肉体的な現れであるように、人間は意識の想念的な現れです。」と書いています。それで、肉体があるところに留まりながらも、意識の影である人間は、想念体として他の場所へ送ることができるということのようです。

さらに、アダムスキーがパサデナで講演していたとき、「病気の友人を救ってやってくれ」と依頼され、講演をしながら同時にその人を快方へ向かわせたということです。こうした病人ばかりではなく、数多くのトラブルを除いた経験があるということです。

これらのことは、アダムスキーが睡眠中に起こることはなく、何らかの仕事を行っているときに発生しているので、これは意識による旅行であると言っています。しかし、本人は、他のところへ、想念を向けているという自覚はないように読み取れます。ここは、自然体で行われているということのようです。

しかし、このような体験は、ＵＦＯ問題に興味を奪われてから無くなってしまったということです。これを「二人の主人に同時に使えることはできない」と言っています。そうすると、日常にさらされる多くの人々は、相当努力をしないと難しいということになるかもしれません。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編１０８＞

〝心の欲するところに従えども矩（のり）を踰（こ）えず〟

これは、論語の一説で有名な言葉です。晩年孔子が自己を振り返って語ったもので、７０歳にしてやっと、この境地、心のままに生きてもやりすぎない状況になったということです。これは、エゴと意識の一体化を意味しているのだと思われます。

Q&A

Ｑ：異星人にも色々？　　※ここでは、よくある質問等をＱ＆Ａとして書いたものです。

Ａ：当然に様々な種族の人たちがいるでしょう。アダムスキーがコンタクトしたのは、旧約聖書につながる中心的な人々です。その人々により、地球人といい加減な接触がないよう宇宙的な統制がとられているようです。グレイ系の異星人は、誤解を含め別のもののようです。

書物紹介

『書いてはいけない 日本経済墜落の真相』　森永 卓郎 著　（株）三五館シンシャ

本書は、「ザイム真理教」に続く現状を打破するための告白本です。著者によるとメディアには絶対に触れてはいけないタブーが３つあるという。１ ジャニーズの性加害、２ 財務省のカルト的財政緊縮主義、３ 日本航空１２３便の墜落事件、ということです。１つ目はすでに知られるようになり、２つ目はすでに書物としているものです。今回は、それらを踏まえ３つ目について書いているものです。これが、あまりにも驚愕な話で・・・しかし、真実かもしれない。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆　　2024 年 11 月 9 日（土）、2025 年 2 月 22 日（土）、5 月 10 日（土）午後 1 時 30 分より台東区民会館第１会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

なかなか多忙なのですが、なんとか予定通りに進めることができました。やはり計画的に行動しないとうまくゆかないものです。

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第１０８号＞

発 行 日　令和　６年１１月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）